若手医師リレーエッセイ
Spirits
スピリッツ

物語への没入

函館五稜郭病院
保谷（やすたに）　優介（ゆうすけ）

札幌生まれ、札幌南高校出身。札幌医科大学医学部を卒業し、現在函館五稜郭病院で初期研修医２年目として勤務しています。
写真は研修病院で、助手として参加させていただいた手術中の一枚です。

初めまして。函館五稜郭病院にて初期研修させていただいている保谷優介と申します。札幌医科大学を卒業し、今年で研修医２年目となります。上級医の先生方や共に働く病院スタッフの皆様から日々刺激を受け、学び多い充実した日々を過ごしております。

この度は大学・研修医として同期の伊藤圭汰先生よりご紹介いただき、執筆の機会を頂きました。伊藤先生は実直に研修に取り組んでおられ、得意分野での知識量には舌を巻くことが多いです。このような貴重な機会を頂き、誠にありがとうございます。

本エッセイのテーマは完全に自由ということで、趣味の少ない私にとってはとても難しいのですが、数少ない趣味である読書について書かせていただこうと思います。

私は幼少期から本が好きな子供だったそうで、DSやゲームキューブなどゲームの代わりに本を買い与えられて育ってきました。小さい頃はファンタジー小説を専ら読んでおり、『ハリー・ポッター』シリーズや『指輪物語』など映画でも有名なファンタジーを、難しい単語が出るたびに辞書を引きながら読んでいました。本を読むスピードも現在より遅く、また話の内容があいまいになってしまうため何度も読み返していたため１作品読み終えるのにとても時間がかかっていた記憶があります。中学生になるころには「この本面白かったし、この人の別の作品も面白いのでは？」とお気に入りの作家を何人か見つけ、親に頼んで著書を買いあさっていました。『阪急電車』の有川浩先生や『チーム・バチスタ』シリーズの海堂尊先生など、映像化作品から興味を持って読み始めた作家の作品も多いです。映像化作品を見てから原作の小説を読むと、書籍を映画にするにあたって残念ながら削られてしまっている部分を見つけ、映画に描かれていない場面を想像し、なんとなくお得な気分になっていました。映像化作品は見る前でも、見た後でも新たな発見や尺の関係で削られてしまった場面、映像化独自の場面などを楽しむことができます。「面白かったな」と思った作品であれば、映像化作品だけではなく一歩踏み込んで原作小説や漫画を読んでみるのは個人的にとてもオススメです。

ただ、ミステリー系は少し毛色が違うかもしれません。私は中学生の頃、推理小説に興味を持ち、その頃映像化していた『告白』や『探偵ガリレオ』シリーズを読んでいました。私の個人的な意見ですが、推理小説の醍醐味は筆者から与えられる情報から自分で犯人やトリックを想像しながら読み進められることだと考えています。自分で犯人を予想しながら読み進めていき、正解していれば少しニヤリとしたり、時には作者のミスリードに引っかかって悔しい思いをしたりという推理小説の楽しみ方をする方も多いかと思います。犯人の予想が正しくても、間違っていてももう一度小説を読み返し、筆者が張っていた伏線を見つけていくという二周目の楽しみ方をしていました。もちろん映像化を見た後、犯人が分かりながらでも伏線を追ったり、ドラマや映画の場面を思い浮かべながら読み進めていくのも面白いとは思います。ただ私の意見としては映像化作品を先に見てしまうとネタバレを勝手に食らった気分になってしまうため、推理小説は映像化作品を見る前に読んだほうが面白いかな、と考えています。

昨今ではゲームや漫画、アニメやドラマなど、多くの娯楽が日常にあふれています。その中である程度時間を取って、活字のみの小説を優先して読む機会は減っていると思います。電子書籍の影響で本を読む方は増えたかなと思いますが、紙の書籍の売上は年々減少しており、読書が娯楽として衰退してしまっているのは間違いない状況かと思います。ただ、読書は新たな分野に興味を持ったり、舞台となった土地に行って見聞を広めたりと、自分の世界を広げるきっかけになるのではないかと思っています。皆様ご多忙の中で業務や自己研鑽に多くの時間を要し娯楽として小説を読む機会と時間は減っているとは思います。ただ、そこでいったん手を止めて、休みの日にゆっくりとページをめくりながら読書を楽しむ時間を設けてみてはいかがでしょうか。

最後まで読んでいただきありがとうございました。拙文ではございましたが、少しでも読書の魅力が伝われば幸いです。